

うぐいす

はらたみ き
原民喜

うめ はな さ がっこう もん うめ こうえん いけ
梅の花が咲きはじめました。学校の門のところにある梅も、公園の池のほとりにある梅も、
しず はな
静かに花をひらきました。ゆうじ いえ にわ しらうめ さ
雄二の家の庭の白梅も咲きました。花に陽があたると、白い花は
パツとうれしそうにかがやきます。ひかげ えだ はな しず あおぞら
日蔭の枝にある花は静かに青空をながめています。梅の
はな
花はみんなじっと何かを待っているようでした。

ゆうじ いえ にわ あさ
雄二の家の庭さきに、ある朝、うぐいすがやって来ました。ホーホケキョ ホーホケキョ
うぐいすはうめ えだ ふたこえ み こえ
うぐいすは梅の枝にとまって二声三声さえずりました。が、すぐにへいをとびこえて、どこ
かへとんで行ってしまいました。

そのよくあさ
翌朝もまたうぐいすがやって来ました。こんどは、ゆうじ いえ にわ き い
雄二の家の庭が気に入ったのか、
すこ
少しゆっくりしているようでした。うぐいすはうめ き えだ えだ じょうず
梅の木の枝から枝へ上手にとびうつって遊ん
でいました。が、しばらくすると、またへいをとびこして行ってしまいました。

うぐいすはまいあさ き
毎朝やって来て、だんだんゆうじ いえ にわ す えんがわ ほう
雄二の家の庭を好きになるようでした。縁側の方か
らゆうじ み
雄二たちが見えても、あわてて逃げだすようなことはありません。
にちようび あさ
日曜日の朝でした。

「よし、あのうぐいすを一つひと しゃしん
写真にうつしてやろう」と、ゆうじ ちち さつそく も えんがわ
雄二の父は早速カメラを持って縁側
にあらわ
に現れました。

「とれた、とれた、うまくとれたぞ」

ちち
父はうれしそうでした。ゆうじ しゃしん で き はや み
雄二もどんな写真が出来るのか早く見たくてたまりませんでした。
いつか
五日ほどして、うぐいすのしゃしん で き あが
写真は出来上りました。それは庭のくろ にわ くろ うめ えだ くろ
黒べいと梅の枝が黒くうつ
ていて、しろ はな
白い花とうぐいすのすがた
姿がくっきりと浮出ている、すばらしいしゃしん
写真でした。ゆうじ ちち
雄二は父
からその写真を一枚もらいました。

けれども、そのしゃしん で き ころ
写真が出来た頃から、うぐいすはゆうじ いえ にわ すがた み
雄二の家の庭に姿を見せなくなりました。
た。どうしたのかしら、どうしたのかしら、と、ゆうじ
雄二はしきりにさびしくなりました。

テキスト : http://www.aozora.gr.jp/cards/000293/files/43538_28512.html

朗 読 : <http://aozoraroudoku.jp/voice/rdp/rd058.html>

つる ふえ 鶴の笛

はやし ふ み こ
林 芙美子

むかし 昔、ききんのつづいた年^{とし}がありました。その村^{むら}には鶴^{つる}が大変^{たいへん}たくさんいました。鶴^{つる}たちは毎日^{まいにち}、たべものをさが^{さが}して歩き^{ある}ましたけれど、どこにもたべものがないので、き^きの早い^{はや}鶴^{つる}はみんなたび^{たび}じたく^{じたく}をしてとお^{とお}くへと^と飛^とんでゆ^ゆきました。

すると、足の悪い^{あし わる}鶴^{つる}と、そのお嫁^{よめ}さんだけが、その村^{むら}へのこ^こるこ^このこ^こになりました。足の悪い^{あし わる}鶴^{つる}は、みんなのい^いなくな^なったさびしい沼^{ぬま}地のふち^{ふち}の葦^{あし}のしげ^{しげ}ったところ^{ところ}にた^たってみんながと^と飛^とびた^たって行^いったそ^そら^そをみ^みていま^{いま}した。

ある日^ひ、鶴^{つる}のお嫁^{よめ}さんは水^{みづ}ぎわのなか^{なか}を、一^{いっ}生^{しょう}懸^{けん}命^{めい}くち^{くち}ばし^{ばし}でたべものをさが^{さが}していま^{いま}した。小^こ魚^{ぎょ}でも一^{いっ}びきぐ^ぐらいい^{いい}いかしら、ど^どじょう^{じょう}でもい^いい、もう、今^け朝^さはさ^さすがにふ^ふら^らにな^なって一^{いっ}生^{しょう}懸^{けん}命^{めい}、あ^あち^ちこ^こち^ち探^{さが}していま^{いま}した。朝^あ陽^{さひ}がき^きら^らき^きら^ら光^{ひか}って広^{ひろ}い空^{そら}に浮^う雲^{ぐも}がひ^ひと^とに^にし^しほう^{ほう}な^なが^がわ^わか^かぎ^ぎは^はや^やし^しの^のなか^かは、と^ところ^ろま^まだ^だら^らに陽^ひの^の光^{ひかり}が煙^{けむ}ってう^うつ^くく^くけ^しき^きで^でした。

すると、しばらくして、何^{なん}ともい^いえ^えない美^うつ^くく^くふ^ええ^えの^の音^ね色^{いろ}がき^きこ^こえ^えま^ました。お^おや^や、何^{なん}だ^だろ^ろう^うと思^{おも}いま^ました。いま^{いま}ま^まで^でお^おな^なか^かの^のす^すい^いて^てい^いた^たお^お嫁^{よめ}さん^{さん}の^の鶴^{つる}は、ふ^ふっ^っと^とお^おな^なか^かの^のく^くち^ちく^くなる^{なる}よ^よう^うな^な気^きが^がし^して、そ^その^の美^うつ^くく^くふ^ええ^えの^の音^ね色^{いろ}を^をき^きい^いて^ていま^{いま}した。

そ^そお^おと^と笛^{ふえ}の^の音^ねの^のする^{する}方^{ほう}へあ^ある^る方^{ほう}へ歩^あい^いて^てゆ^ゆき^きま^ます^すと、あ^あし^しの^の悪^{わる}い^い鶴^{つる}が横^{よこ}笛^{ぶえ}を^を吹^ふいて^{いて}いま^{いま}した。

「お^おや^やお^おや^や、あ^あな^なた^たが^が笛^{ふえ}を^を吹^ふいて^{いて}いた^{いた}の^ので^です^すか^か。」

お^お嫁^{よめ}さん^{さん}の^の鶴^{つる}が^がた^たず^ずね^ねま^ました。

あ^あし^しの^の悪^{わる}い^い鶴^{つる}は^はは^はず^ずか^かし^しそ^そう^うに^にふ^ふり^りか^かえ^えっ^って、

「さ^さっ^っき^きね、何^{なん}か^かない^いか^かと思^{おも}っ^って^て沼^{ぬま}の^のなか^かを^を探^{さが}して^{いて}いた^たの^のさ^さ。そ^そし^した^たら、カ^かチ^ちン^んと^と固^{かた}い^いもの^{もの}が^がく^くち^ちに^にさ^さわ^わった^たので、あ^あわ^わて^てて^てく^くわ^わえ^えた^たら^らこ^この^の笛^{ふえ}だ^だった^たの^のよ^よ。何^{なん}だ^だろ^ろう^うと思^{おも}っ^って^てね、い^いろ^ろんな^な風^{ふう}に^にく^くわ^わえ^えて^{いて}いた^たら、ふ^ふっ^っと^と竹^{たけ}の^の小^{ちい}さい^い穴^{あな}か^から^らき^きれ^れい^いな^な音^{おと}が^がした^たの^のさ^さ、も^もう^う、お^おな^なか^かの^のす^すいた^たの^のも^もわ^わす^すて^て、こ^これ^れを^を吹^ふいて^{いて}いた^たの^のさ^さ……。」

テキスト：http://www.aozora.gr.jp/cards/000291/files/24372_18920.html

朗 読：<http://aozoraroudoku.jp/voice/rdp/rd154.html>